2021 年 1 月 10 日

～毎月 10 日は人権を考える日～

「令和元年度　人権問題に関する市民意識調査」より：その③

令和元年 12 月、市民 2,000 名（無作為抽出、20 歳以上）対象に、「令和元年度　人権問題に関する市民意識調査」（西条市市民生活部人権擁護課・西条市人権教育協議会、27 問：小問を入れて 48 問）を行いました。（平成２６年度にも実施）

あなたが部落問題（同和問題）について初めて知ったのはいつごろですか。

選択項目	人数	構成比	H26調査
小学生の時	370	48.5%	50.6%
中学生の時	168	22.0%	21.2%
16歳から18歳の時	78	10.2%	7.1%
覚えていない	71	9.3%	8.9%
19歳以上	52	6.8%	6.3%
小学校入学前	19	2.5%	4.6%
未記入	5	0.7%	1.3%

部落問題（同和問題）について初めて知ったきっかけは何ですか。

選択項目	人数	構成比	H26調査
小学校の授業で	247	32.4%	※1　47.7%
家族から	220	28.8%	21.0%
中学校の授業で	78	10.2%	※1　47.7%
同和教育の集会や研修会で	38	5.0%	※2　5.8%
近所の人から	38	5.0%	5.4%
覚えていない	33	4.3%	11.2%
学校の友達から	28	3.7%	6.0%
高校の授業で	23	3.0%	※1　47.7%
テレビや新聞などのマスコミ情報で	15	2.0%	－
職場の研修で	9	1.2%	※2　5.8%
部落問題を知らない	8	1.0%	－
部落問題にかかわる出来事があった	3	0.4%	－
大学の授業で	2	0.3%	※1　47.7%
インターネットで	2	0.3%	－
その他	12	1.6%	1.2%
未記入	7	0.9%	1.7%

部落問題（同和問題）について、約７割の人が、義務教育終了までに「知った」と回答しています。さらに、「小学校授業で」「中学校の授業で」知ったという回答が、約半数であり、それ以外は「家族から」という回答が多くなっています。特に、５０歳代までは、「授業で知った」という回答が最も多く、６０歳代以上は「家族から知った」という回答が多くなっています。つまり、５０歳代までの人は、学校教育の中の人権・同和教育で知ったという人が多いと思われます。

昭和４０年、同和対策審議会答申が出されると、「同和問題の解決は国民的課題」「同和問題の解決は行政の責務である」ことなどが明確化されました。

昭和４７年、わが国の義務教育史上はじめて、N社の中学校教科書に部落問題に関する記述がなされ、人権・同和教育における部落問題学習の重要性、不可欠性が認識されるようになりました。それ以来、学校教育において人権・同和教育が本格的に行われるようになりました。５０歳代前後の人からは学校教育の中で、人権・同和教育を受けてきた人が多いと言えます。

人権・同和教育は、「あらゆる人権問題、差別問題」「部落問題」を「正しく知る」こと、そして、「部落問題をはじめとする様々な人権問題を解決」するための「人権感覚と人権意識」を育てることに目的があります。特に、人権・同和教育における「部落問題学習」においては、単に「部落問題」を教えるのではなく、「正しく知り、理解する」ことが望まれます。

社会教育等においても、「研修会」「学習会」「懇談会」等において、人権・同和教育が行われています。これらの機会を通して、「学び直し」をして、自分の身に付けてきた人権・同和教育観や人権感覚・人権意識の再点検をしていきたいものです。

西条市人権教育協議会　西条市人権擁護課